

ネガティブ感情が量刑判断に及ぼす影響

——座圧測定を用いた検討——

○藤原彰紘・大杉朱美
(福山大学人間文化学部)

研究の目的

量刑判断については、これまで多くの研究から検討が行われ、その判断に影響し得る様々な要因が存在することが明らかになっている。本研究は、これまで主観的な指標で検討されてきたネガティブ感情が量刑判断に及ぼす影響を、着席時の重心移動を用いて測定し、検討することを目的としたものである。木村他 (2020) は、ネガティブ感情が喚起された際に重心が後方に移動することを報告している。量刑判断時においても、ネガティブ感情が喚起された場合に重心が後方に傾き、量刑が厳しいものになると予測し、以下の検討を行った。

方法

被験者 大学生 20 名 (女性 11 名, 男性 9 名, 平均年齢 19.6 歳, $SD = 1.10$) が参加した。

実験計画 高ネガティブシナリオ条件 (HN 条件) と低ネガティブシナリオ条件 (LN 条件) からなるシナリオ条件とシナリオ提示時期 (区間 1・区間 2・区間 3・区間 4) の 2 要因被験者内計画。

刺激 殺人罪及び強盗致傷罪の架空犯罪シナリオを 2 種類ずつ作成し、半数の被験者には HN 条件として殺人罪のシナリオを、LN 条件として強盗致傷罪のシナリオを用いた。残り半数の被験者には逆の罪種の別シナリオを用い、カウンターバランスをとった。各シナリオは約 400 文字の文章であり、4 つのスライドに分けた上、各スライドを 20 秒ずつ、合計 80 秒提示した。

装置 座圧測定は BodiTrak2 Pro (Vista Medical 社製) を用いた。

指標 感情状態の測定には Bright & Goodman-Delahunty (2006) が作成した JUNAS (Juror Negative Affect Scale) を用いた。前後の重心移動 (垂直中心値) を指標とし、測定開始からの変化量を求めた。量刑判断は、適切だと思ふ懲役の年数の回答を、3 年以下から 30 年以下の間で求めた。

手続き 被験者は座圧シートが設置された椅子に座り、課題前の主観的感情状態を測定するため、JUNAS へ回答した。その後、PC 画面上にシナリオが条件別に順に提示された。各シナリオ提

示後に、量刑判断と JUNAS への回答を求めた。条件間には 90 秒間の休憩を挟んだ。

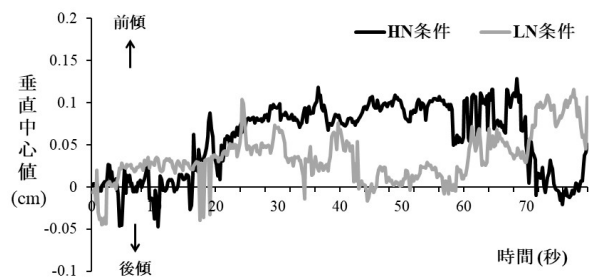
倫理的配慮 福山大学研究安全倫理委員会で審査を受け、承認された (2024-H-40-25 号)。

結果

JUNAS の全体得点が各条件で差があるかを検討するため t 検定を実施したところ、有意差は見られなかった ($p = .367$)。平均値は HN 条件 ($M = 1.38$)、LN 条件 ($M = 1.34$) であった。一方量刑判断については有意差がみられ、HN 条件 ($M = 13.15$) が LN 条件 ($M = 6.3$) より重かった ($p = .002$)。着席時の垂直中心値の変化について、条件と提示時期の 2 要因分散分析を実施したところ、主効果、交互作用ともに有意差は見られなかった (条件; $p = .292$, 時期; $p = .166$, 交互作用; $p = .265$)。

Figure 1

条件別の着席時の重心移動



考察

本研究では、両条件とも十分なネガティブ感情が喚起されず、重心移動の変化も見られなかった。Bright & Goodman-Delahunty (2006) は、シナリオ提示時に陰惨な写真を含めた条件の方がネガティブ感情は喚起されると報告しており、今後はシナリオ提示方法を再検討する必要がある。

引用文献

- Bright, D. A., & Goodman-Delahunty, J. (2006). Gruesome evidence and emotion: Anger, blame, and jury decision-making. *Law and Human behavior*, 30, 183-202.
- 木村 司・植山 七海・片山 順一 (2020). 座圧測定による感情状態推定の試み. *生理心理学と精神生理学*, 38(3), 161-168.